



「都市」について深く考えることは、  
この「社会」について 広く考えること

都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成しています

TEL : 03-5841-6216 FAX : 03-5841-0370  
E-mail : kyoumu@ue.t.u-tokyo.ac.jp  
URL : http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

都市工学科は、現代の社会的要請に心えるために設立された工学部の中では新しい学科です。都市問題及び環境問題の重要性が広く一般に認識され、1962年に学科が発足し、1966年に第1回卒業生を送りだしました。また、1966年には大学院修士課程が、1968年には博士課程が開設され今日に至っています。

都市工学科には、都市計画コースと都市環境工学コースとがあり、それぞれが環境問題や都市問題を解明するための専門的カリキュラムを組んでいます。都市工学科設立の目的は、都市のフィジカルプランナー（すなわち物的・空間的存在によって形成される諸環境の計画とデザインを行う者）の教育・養成、ならびに都市問題に対処する工学的研究・教育にあり、その対象領域は都市を中心としながらも、都市的生活領域の拡大や全地球的都市化にともない、農山漁村を含む地方圏や国土全体、さらには地球環境全体におよびます。また、工学技術にその基盤を置くことは当然ですが、工学部の中では、法学、経済学、社会学、歴史学、心理学、美学、哲学など社会科学・人文科学と密接な関係にある専門分野です。

3年生の時間割例

：必須科目。他は当学科の限定科目選択をすべて選択した場合の時間割です（今後変更される可能性があります）。  
限定選択科目を所定単位数以上修得すれば、それ以外に他学科、他学部科目も制限なく卒業に必要な履修単位数に算入可能です。

3年 S1S2

	月	火	水	木	金
1限	応用水理学	広域計画	生態学・生態工学	環境微生物工学	
2限	都市住宅論	地域デザイン論	土地利用計画論	都市・まちづくりと法	水環境学
3限	応用統計		環境反応論	都市工学演習 A 第一(計画)	都市工学演習 A 第一(計画)
	都市工学の技術と倫理	都市工学演習 B 第一(環境)		都市工学演習 A 第二(計画)	都市工学演習 A 第二(計画)
4限	都市工学数理		都市交通システム計画	環境工学実験演習第一(環境)	環境工学実験演習第一(環境)
	都市工学の技術と倫理				
5限	都市工学グローバル編講義(E)	都市工学輪講第一			

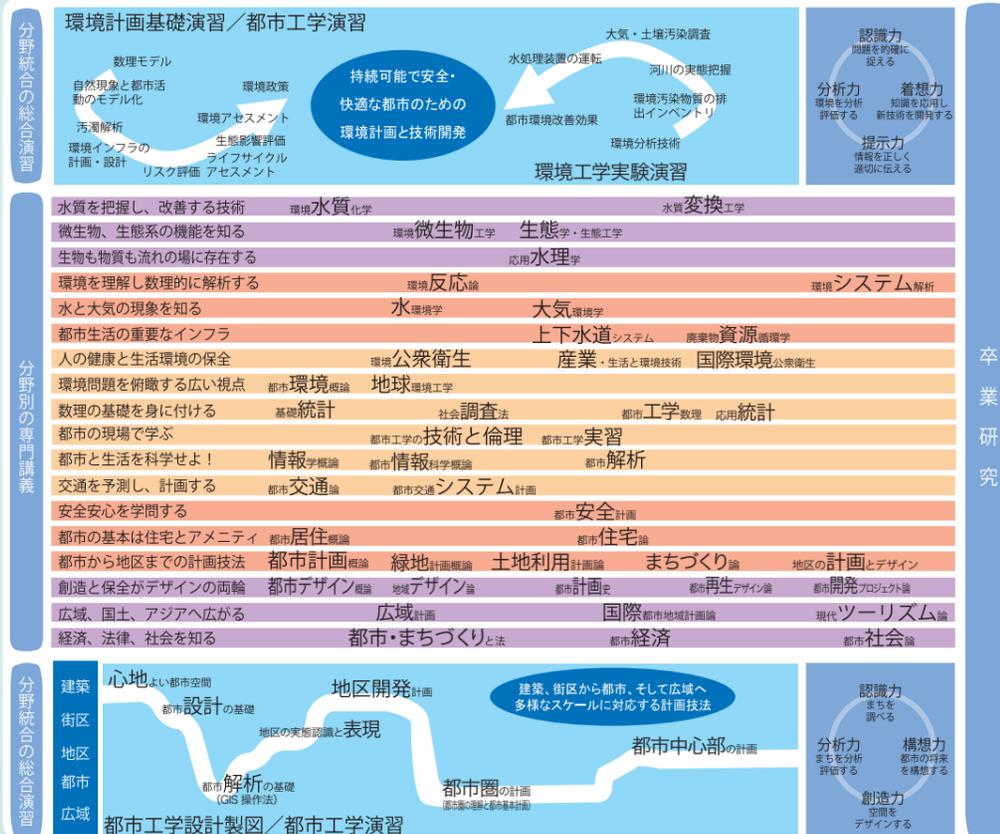
3年 A1A2

	月	火	水	木	金
1限		まちづくり論		水質変換工学	
2限	都市計画史	都市経済	国際都市地域計画論	廃棄物資源循環学	都市安全計画
3限	上下水道システム	都市工学演習 A 第二(計画)	産業・生活と環境技術	都市工学演習 A 第二(計画)	都市工学演習 A 第二(計画)
	都市開発プロジェクト論	都市工学演習 B 第二(環境)	大気環境学	環境工学実験演習第二(環境)	環境工学実験演習第二(環境)
4限					
5限	都市開発プロジェクト論	都市工学輪講第二	都市工学グローバル編講義(E)		

カリキュラム紹介

カリキュラムは、都市計画と都市環境工学の専門的領域と都市の工学的な課題全般をカバーしています。都市問題は多様化しており、都市とその環境を主たる対象としていますが、国土全体から農山漁村を含む地方圏にまで及んでおり、土地利用、交通、空間、防災、地球環境、水環境、廃棄物などの分野で、調査・解析、計画、都市デザイン、手法、技術について幅広く授業を組んでいます。

カリキュラムの中心は演習であり、現実の課題に取り組み自らの考えで都市を捉え構想する力を養います。知識、体験、計画・デザインの基本スキルを獲得し、新しい問題に対応できる豊かな発想の育成が目的です。また、都市工学は、経済、法律、社会、歴史など社会人文科学とも密接な関係にあるため、必修科目の設定を極力少なくし、他学部聴講も含め学生の関心や意欲に沿った柔軟な履修を可能としています。



・講義、演習は今後変更される可能性があります。

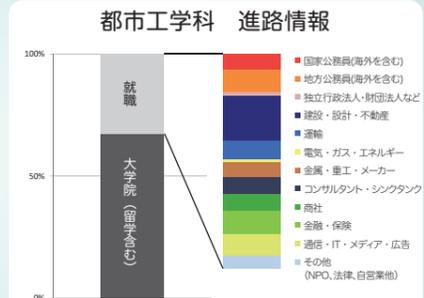
学生生活風景



岩手県大槌町、吉里吉里集落で震災前の環境保全の現場の状況を想像しながら、繰り返し実験を行います。環境問題は世界共通。海外で関係者に都市ヒートアイランドの環境シミュレーションの結果を表示しています。卒業設計では普通の机には乗り切れないほどの大きな模型を作成します。

卒業後の進路情報

この10年の学科卒業生の進路の実績をみると、約2/3が大学院修士課程（留学を含む）に進学しています。残りの1/3程度が就職しますが、その進路は、民間では建設・設計・不動産、運輸、コンサルタント・シンクタンクなど都市工学科に深く関連する部門を中心としつつ、近年では商社、金融・保険、通信・IT・メディア・広告、金属・重工・メーカーなど、極めて多様になってきています。公務員への就職も、国土交通省、環境省をはじめとする省庁や、地方自治体への就職の実績があります。国家公務員への就職は、修士課程修了後の就職でより大きな割合となっています。



先輩からひとこと!

■おいしい水を皆さんへ  
田中美奈子(2000年卒/自治体)  
水処理に係る部署で勤務していますが、水処理技術だけでなく、管路・ネットワーク整備・料金・政策など業務は多岐にわたります。都市工学科で学んだ水処理や水質分析の知識が大いに役立っています。



■環境インフラで社会に貢献  
高橋淳太(2011年卒/環境装置メーカー)  
水インフラの研究開発・設計・施工、維持管理から官民連携による事業運営まで手がける会社に勤務しています。都市工学科で学んだことが、日々の業務の基盤であり、かつ最先端であることを実感しています。



■海外経験を踏まえての都市の計画づくり  
水谷宏杉(1996年卒/設計事務所)  
留学や海外での就業経験も踏まえて、東京都心ほか国内外の都市で計画づくりに携わっています。「場」が持つ可能性を読み解きながら、新しい価値を生み出すための将来像を提示し、連携して形にしていける仕事です。



■鳥の目・虫の目で都市と向き合う  
山田渚(2007年卒/自治体)  
都市計画法に基づく開発許可や、都市計画マスタープランの策定、住民主体の建築協定の締結支援などの業務に携わっています。都市工学科で学んだ、様々な視点で都市と向き合う姿勢が生かされていると感じています。

